

政治研究結果報告書

—政治研究助成—

西暦 2025 年（令和 7 年）2 月 27 日

一般財団法人 櫻田 會
理事長 増田 勝彦 殿

研究者名 宮岡 勲

大学名・職位 慶應義塾大学・教授

第 42 回（令和 5 年度）櫻田會政治研究助成による研究を下記のとおり実施しましたので、その結果について報告します。

※印の記入項目に関する貴會ホームページへの掲載についても同意いたします。

記

※研究の名称（英語も記入） Research Theme

アメリカ合衆国における核抑止理論の政策への影響、1955 年～1976 年
The Policy Impact of Nuclear Deterrence Theory in the United States, 1955-1976

※英文抄録（研究目的、経過、成果 250words 以内） Abstract (Purpose, Process, Significance)

This study aims to reexamine the impact of theory on policy in nuclear deterrence, focusing on the period from 1955 to 1976, when the foundations of the US nuclear strategy were formed. The research process is as follows. Critical review of previous studies: In recent years, there has been a debate about the degree of influence of researchers on the government's nuclear strategy. There is also a common point between the negative and positive views. That is, political science knowledge about the impact of ideas on foreign policy is not utilized in the analysis. Derivation of the question: "When analyzing by combining a historical approach with a political science approach of the impact of ideas on foreign policy, what was the actual image of the golden age of strategic research in nuclear deterrence in terms of the impact of theory on strategy?" is set as a research question. Construction of analytical framework: The analytical framework of this study is constructed from the perspective of the impact of ideas on foreign policy. Selection of research method: Combining historical and scientific approaches. Collection of materials: Collecting related books and articles and using the collection of the Digital National Security Archive. Exploratory research: A pilot study was conducted while attending online classes at Harvard University in the fall semester of 2024. This study was conducted as a basic study for a long-term, multi-year research project.

Therefore, I have not yet reached the stage where I can publish the results.

※研究の目的・研究方法・意義（日本文 600 字以内）

アメリカ合衆国（以下「アメリカ」と略す）においては、第二次世界大戦の終結以降、抜本的な核軍縮を唱える理想主義的な主張と核抑止の有用性を認める現実主義的な主張が対立してきているが、後者の主張も二つの対照的な核抑止の見解、すなわち核兵器による軍事的勝利は不可能であるとする見解と核兵器による軍事的勝利を求める見解に分けることができる。先行研究では、核抑止に関する二つの見解の双方がアメリカ政府の核戦略に影響を与えてきたと考えられている。ただし、それぞれの影響力の変遷については、研究者の間で見解が異なっている。本研究においては、アメリカ核戦略の基礎が形成された 1955 年から 1976 年までの期間に焦点を当てて、核抑止の分野において理論による政策への影響を再検討することを目的とする。

本研究の意義としては、二つの点を挙げるができる。第一の点は、理論と政策の関係に関する考察を深められることである。どのように影響を与えたのかを考察することにより、研究の政策関連性を高めることができ、ひいては学問と政策決定の距離を縮めることができる。第二の点は、アメリカ核戦略の基礎が築かれた 1950 年代半ばから 70 年代半ばまでの時期に焦点を当てることにより、現代の核戦略への理解を深めることができることである。これは、戦後最も厳しく複雑な安全保障環境においてアメリカの核の傘に依存している日本にとっても重要なことであると考えられる。

※研究経過と結果の概要（以下の欄に 35 行以内(1500 字程度)にまとめる）

第 42 回（令和 5 年度）櫻田會政治研究助成による本研究は、複数年にわたる長期的な研究プロジェクトの基礎研究として計画された。本研究の研究経過と結果は、以下のとおりである。

①先行研究の批判的検討

1950 年代半ばから 60 年代の半ばにかけて、抑止、限定戦争、および軍備管理という核戦略の諸テーマに焦点を当てた戦略研究はいわゆる「黄金時代」を迎えた、というのが通説であった。しかしながら、近年、政府の核戦略に対する研究者の影響の度合いについて論争が起きている。歴史学者のブルース・ククリックは、1945 年から 75 年にかけて民間の知識人のアイデアが政府の戦争に関する政策に影響を与えたことはほとんどなかったと主張している。これらの否定的な見解に対しては、反論も提示されている。これらの否定的な見解と肯定的な見解には、共通点もある。それは、アイデアの外交政策への影響についての政治学的な知見が分析に活かされていない点である。

②問いの導出（問題設定）

①の先行研究の批判的検討から、「歴史的なアプローチにアイデアの外交政策への

影響という政治学的なアプローチを組み合わせると、核抑止の分野における理論の戦略への影響という点で戦略研究の黄金時代の実像はどうであったのか」という問題設定を行う。

③分析枠組みの構築

理論をアイデアとして扱う。アイデアの外交政策への影響というテーマについては数多くの先行研究があるが、ジュディス・ゴールドスタインとロバート・コヘインらの研究が有名である。彼らが提示した三つの因果経路、すなわちロードマップとしてのアイデア、フォーカルポイントとしてのアイデア、および制度化されたアイデア、を本研究の分析枠組みとして採用する。

④研究方法の選択

歴史学的アプローチと科学的アプローチを組み合わせる。後者については、帰無仮説の設定や、定性的研究における科学的推論（記述的推論、因果的推論）を行う。

⑤資料収集

関連図書・論文を収集するとともに、アメリカ外交政策極秘文書に関するデジタル国家安全保障アーカイブ（DNSA）のコレクション「U.S. Nuclear History」（1955–1968、1969-1976）を利用している。また、Brillのデータベース「Weapons of Mass Destruction」の購入を図書館に申請中である。

⑥探索研究（パイロット・スタディ）

2024年度秋学期においてハーバード大学エクステンション・スクールのオンライン授業「抑止理論の進展」を聴講しつつ、核抑止の理論や米国核戦略の歴史について理解を深めた。

※研究成果の発表・著書、論文、学会報告等（あるいは発表の計画や形式等）

上記のとおり、本研究は、そもそも長期的なプロジェクトの基礎研究として実施された。そのため、研究成果を発表する段階には至っていない。今後の計画としては、①核抑止の分野における理論の政策への影響についての実証分析の実施、②本研究を土台にした学会報告、および③学術雑誌への論文投稿がある。さらに、本研究で得られた知見を「国際政治基礎」や「安全保障論」などの科目の授業にも活かしつつ、研究対象期間を広げて、最終的には冷戦期から現代にかけての通史を扱う著書として出版することも計画している。

〔注〕 文責は貴研究グループに負っていただきます。個人情報等には十分ご注意ください。